

**「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会中間整理」に対する意見**

令和 6 年 8 月 10 日

全国国公立幼稚園・こども園長会

全国国公立幼稚園・こども園（以下、国公幼）の各園が、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた幼児教育の実現を目指して、各地域で真摯に取り組んできた内容そのものが、中間整理にまとめられたと受け止めております。国が目指している幼児教育の在り方が分かりやすく整理され、幼児教育に携わる関係者のみならず、小学校以降の教育関係者、保護者、地域関係者、行政関係者にも理解を促し、社会全体で幼児教育の重要性を共有する内容としてまとめられたことに期待もしております。

また、「中立性」「公共性」を保った幼児教育が各地域で展開されることも、今後益々重要になるのではないかと考えます。中間整理の中で、国公立幼稚園の役割について、前例を見ない踏み込んだ形で明記していただいたことに感謝する思いと、国が示す幼児教育の方向性に更に貢献できるよう国公幼の各園が与えられた役割を果たす思いを強くしております。今後も幼児教育の基礎・基本を確かな実践を通して広く社会に普及啓発し、地域の核となる園として、幼児教育の振興に寄与できるよう努めてまいります。

以下、全国から寄せられた本会会員の意見を集約したものです。

**○遊びへの理解が幼児期にふさわしいものとして広く共有されるように**

中間整理では、幼児の遊びに関する説明が丁寧に記述され、自発的な活動としての遊びが幼児期特有の学習であることを示していただいた。幼児が遊びそのものに没頭し夢中になって試行錯誤する過程にこそ学びがあり、このような遊びを生み出す環境を構成することが幼児教育の質の高さにつながると考えているが、一方で、価値の多様化が益々進み遊びが様々な捉え方をされている実態を大変危惧している。中間整理の具体的な遊びに関する記述は遊びの体験が教科学習につながるところに着地しており、幼児が遊び込む姿を具体的に盛り込むようにして、幼児教育で考えるとところの遊びが多くの人に理解されるように示していただきたい。

園につながる保護者が幼児の遊びについて理解を深められるよう取り組むとともに、幅広い子育て世帯の保護者や社会全体にも遊びについての理解が広がっていくことを国公幼としても目指したい。また、小学校以降で展開される学習者主体の教育は、幼児教育で実践される自発的な活動である遊びが基盤となっていることを普及啓発していくことにも力を尽くしていくが、それには文部科学省の幼児教育課や他課、小学校長会とも連携して、取り組んでいきたい。

**○国や地方自治体とともに乳幼児教育の質向上の取組を推進できるように**

国公幼ではこれまでも地域に根差した実践的な調査研究、研修等を進めてきたところである。蓄積された研修と研究に裏付けられた実践を、国の施策や各地方自治体の幼児教育の推進に役立てていただきたい。これらの実践研究を基に、今後も地域社会に対して更なる幼児教育の重要性の発信に努めてまいりたい。さらに、本会に所属するこども園の割合は年々増えており、0歳児からの教育という観点を取り入れて実践研究に取り組む必要性を感じている。発達を踏まえた環境を通した総合的な指導や遊びへの援助など、本会が積み重ねてきた研究のノウハウを、これからの時代に求められる教育課題にも生かしていただきたい。

**○幼児の体験を豊かにすることを目的としてICT機器が活用されるように**

中間整理では、現代的諸課題に応じて検討すべき事項としてICTの活用についても触れられているが、記述にあるようなICTを活用した取組には、まだまだ地域間格差があるのが現状である。今後は、幼児の遊びの環境の一部としてデジタル媒体を整備することが望まれるのではないかと。このことについて国が幼児教育におけるICT活用を好事例（モデル）とともに明確に発信し、自治体、各園に担わせるのではないICT機器導入の支援策を講じていただくことをお願いしたい。

## ○幼児教育と小学校教育の円滑な接続が子どもの未来の育ちへとつながるように

これまでも国公幼の各園は、地域の小学校との連携・接続の取組をひたむきに推進してきたところである。後述の公立幼稚園の役割でも触れられているとおり、今後は更に、域内の小学校（タテ）と幼児教育施設（ヨコ）をつなぐ結節点となれるよう地域の教育の質向上に向けて、人、教育内容の双方をつなぐ役割を果たしてまいりたい。また、自園の教育を地域に開くことによって、幼児教育における「自発的な活動としての遊び」「環境を通して行う教育」という教育の考え方が、小学校以降の指導法ともつながって共有されていくようにしたい。「活動の主体は幼児である」とことと「子ども一人一人が自立した学習者である」という考えは同じものである。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、授業改善につなげることが求められる中、小学校においても幼児教育における「環境を通して行う教育」を積極的に取り入れられるよう、国、地方自治体、教育委員会が各校の取組を後押ししていただきたい。

文部科学省が作成した「遊びは学び 学びは遊び」の動画については、国公幼では活用を大いに推進しているところであるが、更に広く社会に伝わるよう国が動画を用いた普及啓発をリードしていただきたい。

## ○公立幼稚園の役割として示された事項を確かに果たせるように

第3章（2）今後の幼児教育施設の在り方の中で、公立幼稚園が直面する厳しい現状とこれまで果たしてきた役割の重要性について触れさせていただいたことに改めて感謝申しあげたい。示された5点の役割について、各地域に応じた実践が進められるよう、全国のつながりを生かして情報交換を進め、更なる教育の質向上に向けて園長が互いに高め合い研鑽に努めてまいりたい。公立幼稚園が、地域全体の教育の質向上に向けた取組を推進し私立幼稚園を含む他園とも協働していくために、学び合い高め合う関係性を築くことに努め、地域の拠点園としての役割を果たしていく。

今、全国の公立園では、園児数減少による閉園の動きが加速化しているが、地方自治体管轄の公立園だからこそ園を存続させ教育を維持管理することが可能となるのではないかと。国が地方自治体の教育委員会に対して、公立幼稚園が中間整理に記載されている役割を果たすことができるよう、存続に向けて強く働き掛け、ご支援いただくことをお願いしたい。また、公立幼稚園が認定こども園化することにより所管課が教育委員会から他の関係部局に移され、質の高い教育実践を支えてきた研修・研究の機会が与えられない、研修を選択できないなどの例が各自治体で散見されている。どの幼児教育施設にあっても、質の高い幼児教育を推進していくことが求められる今、例えば、教育公務員特例法第4章第21条（研修）にあるように、職責を遂行するための研究と修養に努め、自ら主体的に研修を受けることができる仕組みの維持を各自治体に働き掛けていただきたい。

少人数化が進む園の教育活動についても、全国の園では地域と一体となった取り組みが工夫されているところである。少子化は国の喫緊の課題であるが、これまでと同等の人数での保育をスタンダードとする保育スタイルがある一方で、少人数でも充実した教育活動を実現できる実践も存在しており、このような実践を検証し、さらに進めていくことが、公立園だからこそ果たせる役割であると考えている。

## ○国立大学附属幼稚園が幼児教育の質向上に貢献できるように

国立大学附属幼稚園では、これまでも公開保育・研究会を行い先進的な実践研究を行ってきたところである。質の高い幼児教育を担う人材の輩出、地域との交流人事、指導資料の開発にも寄与しており、各地域の教育委員会等と連携して地域の幼児教育に貢献していることにも引き続きご理解いただき、国立大学附属幼稚園の存在意義を明確に示し、役割を果たせるような環境整備を進めていただきたい。